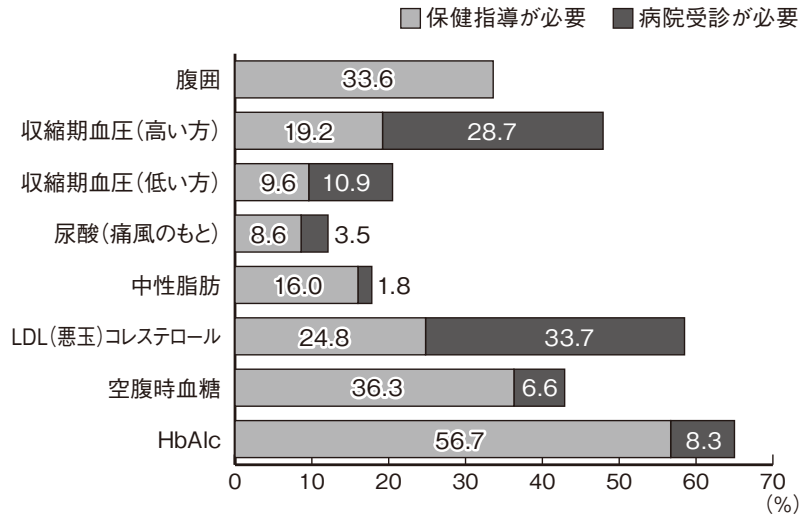


◆平成21年度における国保加入者の特定健診の受診結果 別表1



10人に6人は糖尿病型もしくは糖尿病の疑い
 別表1は、平成21年度における国保加入者の特定健診の受診結果です。糖尿病の検査項目であるHbA1cでは、65%の人が基準値を超えています。これは、約10人のうち6・5人が、糖尿病型もしくは糖尿病の疑いがあるということになります。また、血圧でも28・7%の人が病院での治療が必要

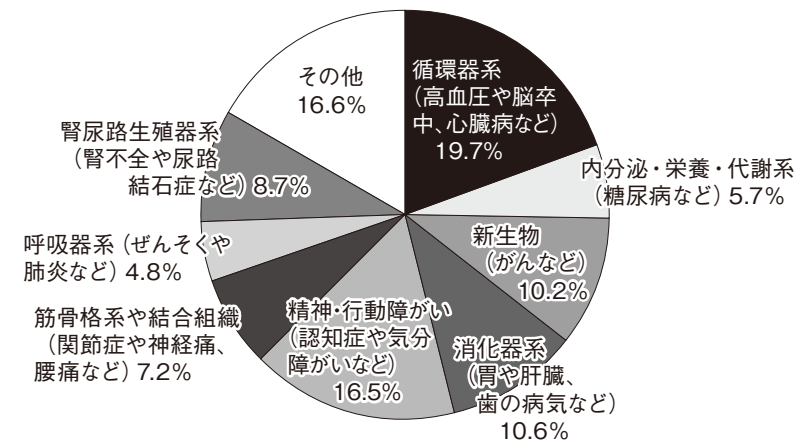
◆各項目の判定の基準など 別表2

項目	判定の基準		疑われる病気・状態
	保健指導レベル	病院受診レベル	
腹 囲	男性85cm以上、女性90cm以上		内臓脂肪型肥満
血圧(高い方) (低い方)	130mmHg以上	140mmHg以上	高血圧
	85mmHg以上	90mmHg以上	
尿 酸	7.1mg/dℓ以上		腎臓病
中性脂肪	150mg/dℓ以上	300mg/dℓ以上	動脈硬化・脂質異常
LDL(悪玉)コレステロール	120mg/dℓ以上	140mg/dℓ以上	
空腹時血糖	100mg/dℓ以上	126mg/dℓ以上	糖尿病
HbA1c	5.2%以上	6.1%以上	

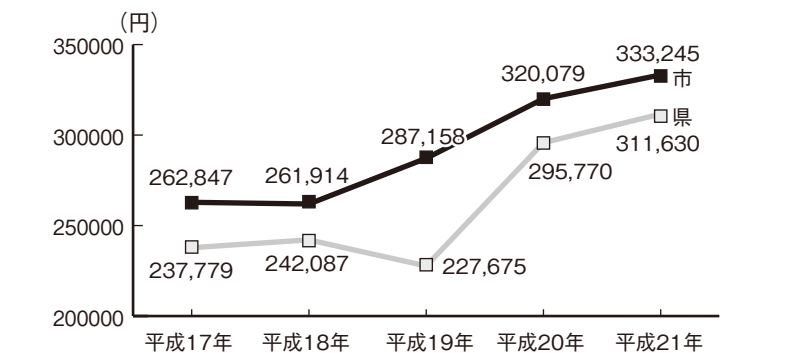
要と判定されたほか、動脈硬化を促進させるLDL(悪玉)コレステロールも約6割の人が基準値よりも高くなっています。
 このように、多くの人が生活習慣病の原因となる項目の数値に異常を持っていることが、この特定健診の結果でわかります。
 なお、各項目の判定の基準などについては、別表2をご覧ください。

高血圧や糖尿病または糖尿病の疑いがある人は増えている
 国保加入者が平成21年5月に病院で受診した疾病を分類別(別表3参照)に見てみると、高血圧・脳出血などの「循環器系」、糖尿病などの「内分泌・栄養・代謝系」、「新生物(がん)」が全体の約4割を占めていることがわかりました。この割合は、年々増加傾向にあるほか、県の平均と比べても高

◆国保加入者の疾病分類別構成割合 別表3



◆国保加入者(一般被保険者)における1人当たりの年間医療費 別表4



い状態で推移しています。
医療費も増加傾向
 また、医療費も生活習慣病の割合と同様に、年々増加傾向にあります(別表4参照)。平成21年度の国保加入者(一般被保険者)における、1人当たりの医療費は333,245円で、県の平均を上回っている状況です。

健診へ行こう!



特定健康診査を自分の健康づくりにも利用しませんか?

日本人の死因の約6割を占めるがん・心臓病・脳卒中などの生活習慣病。これらの原因となるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)や高血圧、高血糖などは自覚症状がないまま進行し、自覚症状が出たときには、すでに手遅れになっている場合もあります。
 また、重症化したときは医療費の負担も大きくなり、生活にも大きな支障が出てしまいます。
 このような生活習慣病を早期に発見するために、平成20年度から始まった「特定健康診査(特定健診)」。加入している医療保険者が実施主体となり、40歳以上の人であれば誰でも受診することができます。
 天草市の国民健康保険(国保)の加入者も受診していますが、平成20年度の受診率は26・5%、同21年度は31・3%とまだまだ低い状況です。
 今号では、平成21年度の国保加入者の特定健康診査結果からわかった、市民の皆さんの健康状態を見てみましょう。